

平成30年度

第2回 防犯ボランティア活性化フォーラムを開催

平成31年1月18日(金)、愛知県産業労働センター(ウインクあいち)において、「平成30年度 第2回 防犯ボランティア活性化フォーラム」を開催しました。本フォーラムは、防犯ボランティア団体の課題を洗い出し、解決策を見いだすとともに、防犯ボランティア団体自体やこれを支援する行政、警察がそれぞれ取り組むべき方向性を考える機会とするために開催するもので、自治会や防犯ボランティア団体、自治体職員、警察署員など約160名が参加しました。

<基調講演>

【講師】 法政大学文学部心理学科教授 越智 啓太 氏 (※)

【演題】 「地域に求められる持続可能な防犯活動 ～犯罪心理学の観点から～」

【概要】

○侵入盗や子供を狙う犯罪を防ぐには、敵(犯人)の特徴を知り、その出方に対応した防犯活動を行うことが重要。犯人を外見から見分けることは難しい反面、犯行が行われやすい場所には特徴があるため、「こんな人に注意する」というより「こんな場所に注意する」というように、人よりも環境に重点を置いた対策を行うことが効果的。



○犯人は「人目」と「管理性の高い場所」を嫌う。見回り活動により「監視の目」をつくるほか、散らかったゴミを片づけ、街をきれいにしたり、住民の絆が強いことを示すなど、「管理された街」をアピールすることで犯罪は減少する。

○見回り活動を持続させるためには、児童の下校時刻や人目の少ない場所などに絞り込み、分散して行うなど、効率的に行うための工夫が必要。

(※)越智氏は、「犯罪捜査への心理学の応用」が専門で、心理学を利用した犯罪捜査手法や操作ツールの開発、犯罪者の行動に基づいた防犯技術の開発についての研究を行っている。

<防犯ボランティア団体発表>

【発表者】 長根連区自治協議会(瀬戸市) 坂本 瑞夫 氏

【テーマ】 「地域の絆を強めて犯罪のないまちづくり」

【概要】

○地域では「防犯パトロール隊」「子ども見守り隊」「青パト隊」を結成し、毎月1回、警察署と連携して、100名以上が参加する夜間パトロール活動を行うほか、住民が一丸となって児童の登下校時の見守りや青色防犯パトロール車による身近な犯罪の警戒活動に取り組んでいる。防犯活動のモットーは「敵を知り己を知れば百戦危うからず！」



○住民へのアンケートやワークショップの実施を通じて住民の声を的確に把握し、「お困りごとお助け隊」や「地域力向上委員会」を立ち上げるなど、地域の課題を解決するための支援活動を積極的に推進し、地域における絆の強化や防犯意識の高揚を図っている。